

講演 概要

「博物館を楽しく利用する七つの方法」

ミキモト真珠島 真珠博物館館長 松月清郎さん

一気に博物館を利用しようとするとうれる。思い切って「適当に見る」のが楽しく見る一つの方法。逆に、作る側も疲れないような配慮が大事である。

何度も見ると、お気に入りのものや、館自体に対する親しみが出てくる。

お気に入りのができると何回もリピートする。資料も大事だが、それを取り囲む環境も大事。調度品なども全体としての博物館の雰囲気左右する大きな要素である。

子どもにとって大事なのは、知識を押し付けることではなく、博物館で整理された物を見せることで、世の中の仕組みや秩序を具体的な形として理解できるようにすることである。

学芸員というのは物と人との媒介をしている人間。学芸員になりたいという若い人がこれからどんどん出てきて欲しい。

全国で、今まで観光地でなかったところも観光地化してきている。博物館も観光のポイントとして注目されているが、競争の原理から離れたところで博物館を考えてみるのもいい。

博物館を活性化していくためには、博物館の話題をみんなが取り上げるようになるということが必要である。

今、喫緊の問題というのは、県立博物館の膨大な資料を一体どうするか。物をいい状態で収め、活用して、県民に面白く見ていただけるような学芸員の活動を約束できる博物館であること。そこに行って、学芸員と楽しく話ができると、博物館を利用するのがうまい子どもたちが三重県に増えていく素地になるのではないかな。